

第6学年1組 社会科指導案

平成30年6月14日(木) 第5校時 6年1組教室

指導者 辻本 優之

1 単元名 武士のパワーの源を探そう！

2 単元目標

- ・武士のくらしや源平合戦、鎌倉幕府の始まりに関心をもち、武士中心の政治へと移り変わっていく様子について進んで調べたり考えたりすることができる。(関心・意欲・態度)
- ・武士のくらしや源平合戦、鎌倉幕府の始まりを関連づけ、武士中心の政治へと移り変わる様子やそれらに関わる人物の願いや働きについて考え表現することができる。(社会的な思考・判断・表現)
- ・年表や絵巻物などの資料から、武士のくらしや源平合戦、鎌倉幕府の政治について必要な情報を読み取ることができる。(観察・資料の活用の技能)
- ・武士による政治が始まったこと、源頼朝によって幕府が開かれて武士の力が全国に及ぶようになったことを理解できる。(社会的な事象についての知識・理解)

3 単元について

(1) 子どもの姿

本学級の児童は6年社会「むらからくにへ」において、吉野ヶ里遺跡の想像図から古代の人々のくらしについて考え、学習課題を自ら設定し、さらにそのことについて追究しようとする事ができた。しかし、追究したことをまとめたり、人物を中心に調べたりする経験が少なく、資料から要点を読み取ることができなかつた。子どもたちは同じ視点で学習課題について考えられなかつたことで、自信をもって自分の考えを伝えることが難しい様子が見られた。そこで本単元では、資料から調べたことを根拠に自分の考えをもたせ、絆メーターで幕府と御家人との関係を表現させる。単元を通して、絆メーターという共通する学習課題に対する視点を与えて振り返りをさせることで、子どもたちはお互いの意見を理解しやすくなるだろう。共通する学習課題に対する視点を与えることで、自信をもって自分の考えを伝えようとする姿を目指していきたい。

(2) 単元構想について

本単元では、武士による政治が始まったこと、源頼朝によって幕府が開かれて武士の力が全国に及ぶようになっていく様子について考えを深めさせたい。つかむ段階では、武士のくらしや成り立ちについて学習する。最初に武士の館の絵と出会わせる。貴族の生活を学んだ子どもたちは新しい身分の人々に驚くであろう。また、その成り立ちについて調べることを通して、武士が自分の土地を大切に、守るために武装したことをつかませたい。次に、平治物語絵巻の武士が貴族を押しつけて歩く様子から、武士が貴族を凌ぐ力をもつようになったことを読み取らせ、「武士がどのように力を伸ばしていったのか」という疑問もち、その様子や過程を進んで調べたいという意欲の高まりを期待する。

深める段階では、源平合戦や鎌倉幕府の成り立ちについて学習する。第2時では武士が力を伸ばしていく様子について考えさせる。源義家が後三年合戦において、共に戦った武士に自分の財産から恩賞を与えた資料と出会わせる。命をかけて戦った結果、朝廷ではなく、義家から恩賞をもらったことから、信頼関係を元に武士団が形成されていった様子をつかませたい。第3時では、源頼朝、平清盛について人物を中心に調べ学習を行う。保元・平治の乱後に力を持ち、中国との貿易や太政大臣就任と権力を伸ばしていく中で、源平合戦では源氏に敗れることから、子どもたちは驚くであろう。その中で、「平氏にあらずんば、人にあらず」という言葉や平氏一族を要職につけていく様子からおごり高ぶった政治をしていたことをとらえさせ、源氏と武士との信頼関係を絆メーターで表現しながら比較し、源平合戦の勝因について追究していく姿を目指したい。また、地元の武士重原次広の源平合戦での活躍についても紹介し、頼朝と次広のその後の関係について進んで調べたいという意欲の高まりを期待する。第4時では鎌倉幕府の仕組みについて学習する。次広が源平合戦の功績から、重原荘の地頭や京都大番役に任命される様子から、「ご恩」と「奉公」の関係について考え、土地を中心とした信頼関係をとらえさせたい。その一方で、西国の武士は地頭に任命されることが少なかったこと、頼朝の死後の混乱、北条氏の横暴な政治から、幕府への不信感があったことについて押さえ、絆メーターで表現させる。また、世の中の混乱の中、後鳥羽上皇の「執権北条義時を討て」という命令から承久の乱が起き、幕府が勝利したことを押さえる。幕府軍の勝因について子どもたちに自分の考えをもたせておく。第5時では、前時で考えた幕府の勝因について話し合う。承

久の乱の様子を提示し、出陣するまで幕府軍10万人が3日、朝廷軍2万人が18日かかっていることから、幕府軍の連帯のとれている行動に気付くであろう。その要因として北条政子の演説があり、その演説の内容を読み取らせることで、幕府と御家人との信頼関係の深さについてとらえさせたい。第6時では、承久の乱後の幕府の制作について考えさせる。幕府が承久の乱後、六波羅探題を設置したこと、後鳥羽上皇を隠岐へ島流しにしたこと、朝廷に味方した重原荘は幕府側の二階堂氏が治めるようになったことから、幕府の権力は朝廷をしのぎ、全国まで及ぶようになったことを考えさせたい。第7時では、元の襲来と幕府と御家人との関係について考えさせる。元の襲来から日本を守ることができたが、新たな領地を得ることができず、十分な恩賞を与えることができなかったことから、幕府と御家人の信頼関係が崩れ、鎌倉幕府の滅亡へとつながったことをおさえたい。

広げる段階では、武士中心の政治について学習したことを新聞にまとめさせる。新聞をまとめるときに、大切にしたいキーワードについて聞いてみタイムを行うことで、武士中心の政治についての考えをまとめさせたい。

(3) 自他の考えを大切にし、主体的に学びを深める子を育てるための手立て

①自分ごととしてとらえるために

- ・御家人の幕府への信頼度を「絆メーター」で表現させることで、御家人の気持ちになって考えさせて進んで幕府について調べてみたいという気持ちをもたせる。1-(2)-ウ
- ・自分の暮らしている刈谷に武士がいたことを調べることで、身近な地域と中央政権との関わりを感じさせ、武士中心の政治の移り変わりについて興味をもって学習に取り組ませる。2-(2)

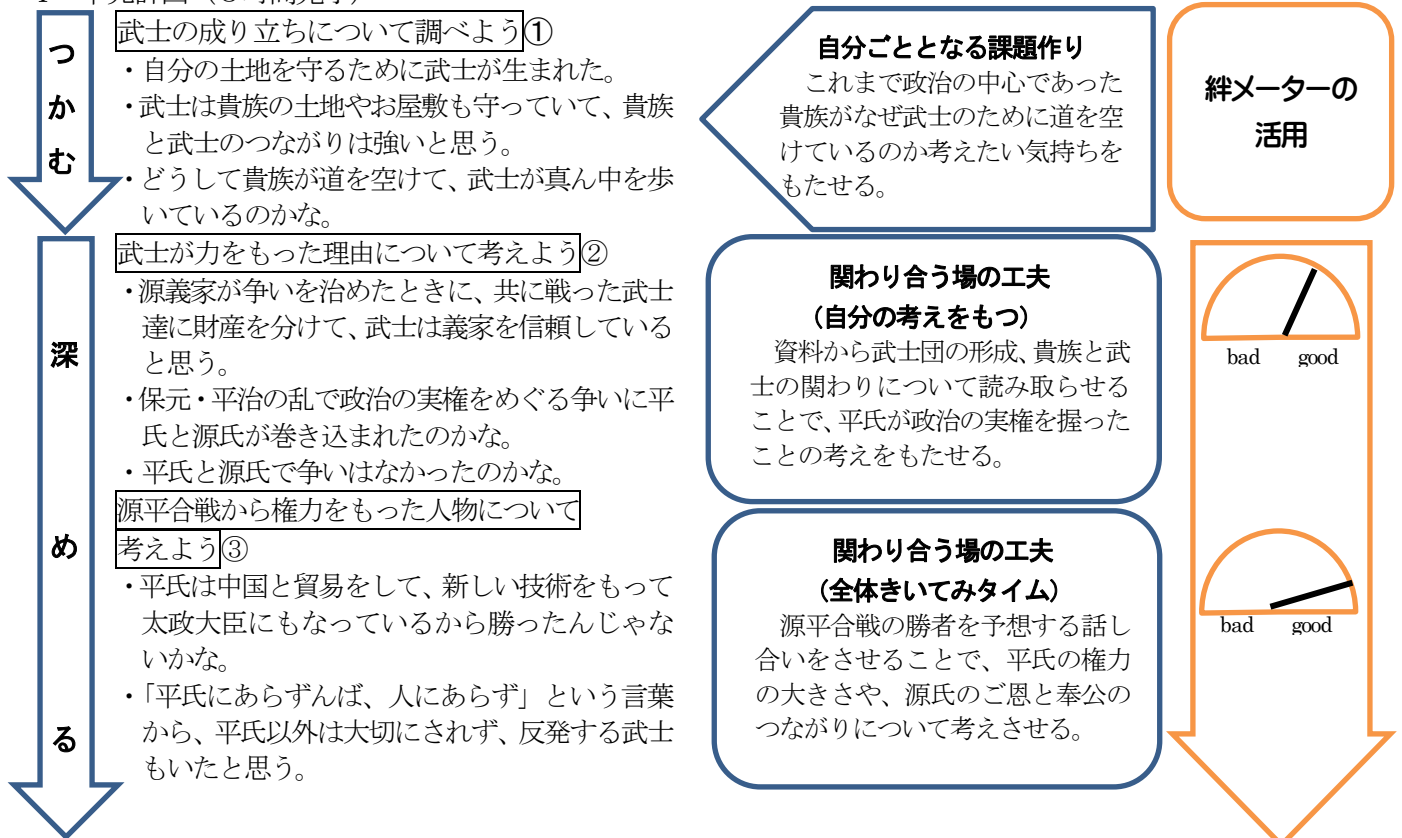
②きいてみタイムの設定 1-(2)-ア

- ・問題を解決しようと話し合う際は、自分で調べた資料を根拠に述べさせたり、絆メーターをもとに自分の考えと友達の意見を比較しながら聞かせたりすることで、武士中心の政治についての自分の考えを深めさせる。

③振り返る場の設定

- ・毎時間、武士中心の政治について学んだことを絆メーターで表現してまとめさせることで、自分の学びを実感させる。1-(2)-オ
- ・単元の終わりに、武士中心の政治について学習した内容を新聞にまとめ、伝える場を設定することで、学習したことを自分自身と結びつけたり、今後の歴史学習に生かしたりできるようにする。1-(2)-エ

4 単元計画 (8時間完了)



深

- ・源氏にお世話になった武士や地元の重原広次という人も源氏に味方して戦ったみたいだよ。
- ・壇ノ浦の戦いで勝利した源氏は鎌倉幕府を開いて、どんな政治を始めたのかな。

鎌倉幕府の仕組みについて考えよう④

- ・ご恩と奉公の関係で、幕府と御家人は信頼関係でつながっていた。
- ・次広は源平合戦の功績で地頭に任命されて、ご恩をいただいているし、京都大番役として奉公もやっている。
- ・西国の御家人は地頭に任命されなかったみたいだけど、幕府による政治に不満をもつ人はいなかったのかな。

幕府が承久の乱で勝った理由について考えよう

⑤本時

- ・将軍が途絶えて幕府が混乱しているし、勢力図を見ると朝廷の勢力が大きいから、朝廷に味方したと思う。
- ・幕府と関係のあった重原広次も朝廷に味方している。
- ・政子の演説を聞いて、頼朝へのご恩を思い出して一生懸命戦ったと思う。
- ・承久の乱後、世の中はどのように変わったのかな。

承久の乱で世の中がどのように変わったのか考えよう⑥

- ・承久の乱後、上皇を島流しにするほどの力を鎌倉幕府はもっているから、朝廷を超える力を持ったと思う。
- ・朝廷の監視役をつけて、朝廷側の武士も幕府に従うようになって、幕府が日本全体を治めるようになった。
- ・武士中心の政治がこれからずっと続いていくのかな。

元寇で世の中がどのように変わったのか考えよう⑦

- ・元が海を越えて日本に攻めてきたよ。
- ・日本は自分の国を守ることができたけど、新しい土地を手に入れることはできなかった。
- ・御家人は命をかけて戦ったのに土地をもらえず、信頼関係やご恩と奉公の関係が崩れてしまったんだね。

鎌倉新聞を作ろう⑧

- ・貴族の時代から武士の時代が変わり、源平の戦いを経て鎌倉幕府が開かれ、武士による政治が始まった。
- ・土地を仲立ちに幕府と武士のつながりが大事にされ、承久の乱で朝廷を倒したことで、幕府の力が西国まで及び、江戸時代まで続く武士中心の社会が始まった。

め

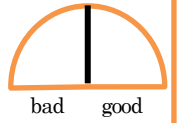
る

広
げ
る

関わり合う場の工夫

(自分の考えをもつ)

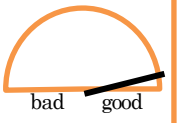
幕府の政治について理解することで、幕府と御家人との信頼関係について理解させる。



関わり合う場の工夫

(全体きいてみタイム)

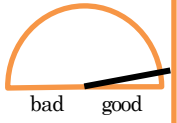
幕府が承久の乱で勝った理由について考えさせることで、幕府と御家人の信頼関係について理解させる。



関わり合う場の工夫

(全体きいてみタイム)

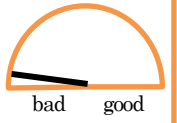
承久の乱後の幕府の政策について考えさせることで、幕府の力が西国まで及んだことを理解させる。



関わり合う場の工夫

(全体聞いてみタイム)

元寇後の幕府と御家人との関係について考えさせ、ご恩と奉公の関係が崩れ、幕府が倒されたことを理解させる。



振り返る場の設定

単元全体を振り返り、武士中心の政治について展望をもたせる。

5 本時の指導 (5/8)

(1) 本時の目標

- ・承久の乱における幕府と御家人に関心を持ち、進んで承久の乱の勝因についての話し合いに参加しようとする
ことができる。 (関心・意欲・態度)
- ・既習事項や承久の乱の様子、北条政子の演説を根拠に、承久の乱の勝因について話し合うことを通して、幕府と御家人との関係について考え表現することができる。 (社会的な思考・判断・表現)

(2) 本時の展開

○前時の振り返りをする。

○本時のめあてを書く。

幕府が承久の乱で勝った理由について考えよう

○前時で考えた、幕府が承久の乱で勝った理由について話し合う。

- ・御家人が中心となって戦ったと思う。
- ・武芸のけいこを重ねていたからだ。

○承久の乱の様子の資料から、幕府の勝因となったと思うところに線を引き、発表する。

- ・幕府軍は3日、朝廷軍は18日かかっており、東国の武士は、「いざ、鎌倉」を合い言葉にいつも準備していたのかな。
- ・幕府軍は10万人も集まっているから勝てたと思う。
- ・北条政子が東国の御家人を集めて演説したと書いてある。どんな演説をしたのかな。

北条政子の演説のどの部分に御家人の心動かされたのか考えよう

- ・頼朝の妻である北条政子の演説を聞いて、頼朝へのご恩を返そうと思った。
- ・身分の低かった武士に、土地を与えたり、地頭の仕事を与えてくれたりしたことに奉公しようと思った。
- ・鎌倉武士は日頃からトレーニングをしていて、「いざ、鎌倉」を合い言葉にすぐ駆けつけようと思った。

○本時の振り返りを書いて発表する。

- ・幕府が不利な中でも、幕府と御家人のご恩と奉公の関係を大切にしている、信頼関係があることがわかりました。
- ・頼朝と御家人の関係は、頼朝が死んでからも続いており、深い信頼関係で結ばれていると思った。
- ・幕府と御家人と協力して戦って、承久の乱後どのような世の中になったのか調べてみたい。

(5) 評価

- ・承久の乱における幕府と御家人に関心を持ち、進んで承久の乱の勝因についての話し合いに参加しようとする
ことができたか。 (話し合いの様子・授業態度)
- ・既習事項や承久の乱の様子、北条政子の演説を根拠に、承久の乱の勝因について話し合うことを通して、幕府と御家人との関係について考え表現することができたか。 (話し合いの様子・振り返り)

自分事にする課題作り (前時)

将軍が途絶え、不安定な状況の幕府であったのに、承久の乱で勝利できた理由について考えさせることで、承久の乱について考えたいという気持ちをもたせる。

関わり合う場の工夫

(全体きいてみタイム)

承久の乱の様子をまとめた資料を見て、勝因についてかんがえさせることで、北条政子の演説で東国の御家人が大勢集まったことをとらえさせる。

関わり合う場の工夫

(きいてみステージアップタイム)

北条政子の演説のキーワードについて考えさせることで、幕府と御家人の関係についてとらえさせる。

振り返る場の設定

承久の乱時の武士の行動についてまとめさせることで、幕府と御家人の信頼関係について考えさせる。

つかむ (5)

深める (3)

振り返る (7)